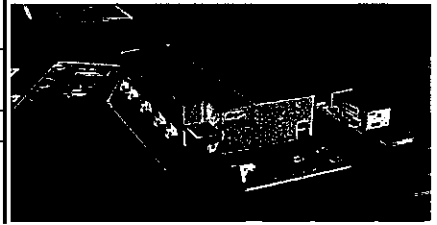


# CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	山陽自動車運送株式会社 新京都	階数	地上1F
建設地	京都府八幡市内里河原24番,22番1	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	45 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年8月 予定	評価の実施日	2017年9月26日
敷地面積	8,871 m <sup>2</sup>	作成者	日高 雅史
建築面積	2,809 m <sup>2</sup>	確認日	2017年9月28日
延床面積	5,560 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社鴻池組大坂本店一級建築士事務所 日高 雅史



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.0 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p>①参照値 100% ②建築物の取組み 74% ③上記+②以外の 74% ④上記+ 74%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 <b>Qのスコア = 2.4</b>		
<b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア = 2.7 音環境: 3.0, 温熱環境: 2.3, 光・視環境: 2.5, 空気質環境: 3.4	<b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア = 3.0 機能性: 2.5, 耐用性: 3.0, 対応性: 3.9	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> Q3のスコア = 1.7 生物環境: 1.0, まちなみ: 2.0, 地域性: 2.0
LR 環境負荷低減性 <b>LRのスコア = 3.6</b>		
<b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア = 4.2 建物外皮の: 1.0, 自然エネ: 3.0, 設備システ: 4.2, 効率的: 3.0	<b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア = 3.0 水資源: 3.0, 非再生材料の: 3.0, 汚染物質: 3.0	<b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア = 3.4 地球温暖化: 4.0, 地域環境: 3.0, 周辺環境: 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合	室内の環境に配慮してF★★★★の建築材料を使用し、耐用年数の高い建築材料採用している。	その他 特になし
Q1 室内環境	室内の環境に配慮してF★★★★の建築材料を使用。	Q3 室外環境(敷地内) 特になし
LR1 エネルギー	LED照明の採用。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率: 74%
Q2 サービス性能	耐用年数の高い建築材料採用。	
LR2 資源・マテリアル	節水型便器の採用	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される